

地域の観光資源を生かす「みちのくの小京都」角館の街路整備

秋田県建設部都市計画課 主査 小林 勇

1. はじめに

秋田県仙北市角館は「みちのくの小京都」と呼ばれ、歴史的に貴重な文化財や江戸時代からの町割が現在も残る城下町で、年間約200万の観光客が訪れる東北有数の観光地である。

まちは「火除け」と呼ばれる防火帯を境に、北側が内町地区（武家町）、南側が外町地区（商人町）となっており、内町地区の武家屋敷通りとその沿道6.9haは、昭和51年に「重要伝統的建造物群保存地区」に指定され、黒板塀と国天然記念物を含む約400本のシダレザクラが調和した武家屋敷が立ち並ぶ。また、桜木内川の2kmにも及ぶ桜堤は、「日本のさくら100選」にも選ばれる国指定名勝になっている。一方で、まちなかは城下町特有の狭隘な道路が多く、特に観光シーズンにおける、著しい交通渋滞や観光客の安全確保、駐車場の不足などの問題が深刻化し、観光地の交通環境の改善が必要となっていた。

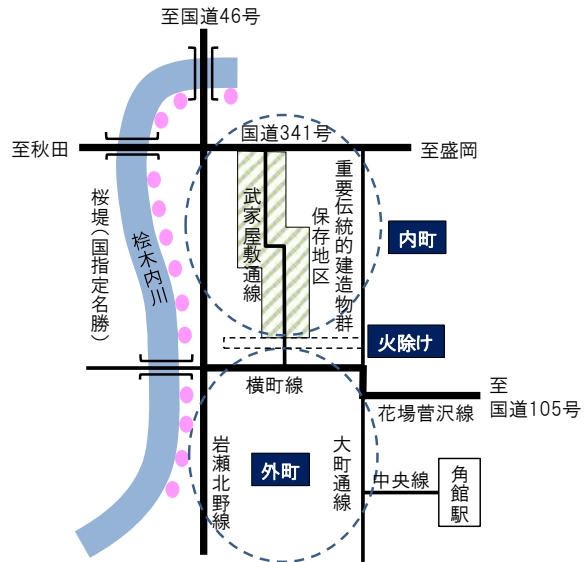


図-1 角館の略図

2. 角館の道づくり

このような背景から、仙北市では、昭和58年に歴史的地区環境整備街路事業（歴みち事業）の調査を開始し、「歴史」「文化」「観光」といった地域の特性を生かした魅力あるまちづくりをコンセプトに、都市計画道路網の見直しを図り、幹線道路の整備と歴史的道筋の保全・再現などの街路整備を進めてきている。また、県と市で覚書を取り交わし、将来県道として管理する道路は県施行、市道として管理する道路は市施行として、県と市が協力して角館の道づくりに取り組んでいる。

《基本方針》

- ①武家屋敷通線を歩行者優先の道に
- ②既存の道筋や水路を活かした歴史的空間の復元と保全
- ③市街地環状道路の形成による、まちなかの渋滞緩和と観光地へのアクセス性の向上
- ④歩行空間の確保による回遊性の向上
- ⑤景観への配慮



写真-1 武家屋敷通線の渋滞状況(S63年頃)

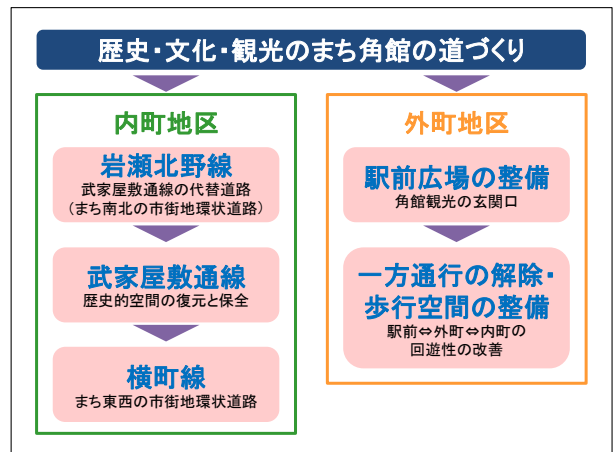


図-2 角館の道づくりの概要

3. 各街路の整備内容とストック効果

(1) 岩瀬北野線

- ・事業主体 秋田県
- ・事業期間 昭和60年度～平成6年度
- ・事業規模 延長800m、幅員16m

江戸時代からの幹線道路であった武家屋敷通線から通過交通を排除するため、武家屋敷通線の代替機能（バイパス）となる岩瀬北野線の整備を行った。岩瀬北野線は、桧木内川の桜堤と武家屋敷が並ぶ重要伝統的建造物群保存地区に挟まれ、武家屋敷通りと並び景観に優れた路線である。そのため、自然石を使用した歩道舗装や天然木を活用した防護柵など、景観に配慮した整備を行ったことで、町の代表的な散策路にもなっている。



写真-2 岩瀬北野線(バイパス)

【ストック効果】武家屋敷通線から岩瀬北野線へ、約3,000台（全体の約2/3）の通過交通が転換されたことで、武家屋敷通線を歩行者優先の道にすることができた。また、武家屋敷通線の交通量が減少したことで、車の振動や排気ガスから、樹勢の衰えが懸念されていたシダレザクラや、文化財を保全することができた。

《交通量の変化》

- ・武家屋敷通線 約5,000台/日（整備前）→約1,760台/日（整備後：H19）
- ・岩瀬北野線 約3,250台/日（整備後：H19）

(2) 中央線（角館駅前広場）

- ・事業主体 仙北市
- ・施行年度 昭和63年度～平成8年度
- ・事業規模 延長125m、幅員20m
駅前広場面積7,000㎡

秋田新幹線の開業に合わせ、角館の玄関口である駅前広場の整備を行った。これにより、歩車道が分離され、開放的な交流空間が確保されるとともに、煩雑であったバス・タクシー乗り場も集約され、乗継利便性の向上が図られた。また、木造のバス・タクシー乗り場や、あえて桜の高木・老木とした植栽は、「みちのくの小京都」角館の玄関口にふさわしい都市景観を演出している。



写真-3 角館駅前広場

【ストック効果】駅前広場の整備に合わせて、駅舎など周辺の建物の外観も町家風の意匠に統一された。事業地内にあった昭和7年に建築された旧農協の米倉庫（外観は日本の伝統的な土蔵造り、内部は和洋折衷式の蔵）は、移築・保存し、観光情報センター、バス、鉄道の待合所としての機能を付加したことで、駅前のシンボリック建物（駅前蔵）として利活用されている。



写真-4 駅前蔵



写真-5 観光情報センター(駅前蔵)

(3) 武家屋敷通線

- ・事業主体 仙北市
- ・事業期間 平成6年度～平成12年度
- ・事業規模 延長810m、幅員11m

内町地区は、江戸時代初期の町割以来、区画、道幅、道筋ともほとんど変化がなく、その中でも沿道に多くの武家屋敷が残る武家屋敷通線は、角館観光のメインストリートとなっている。そのため、岩瀬北野線の供用によって歩行者優先の道となった武家屋敷通線を、江戸時代の姿に復元することとし、関係行政機関、学識経験者、地域住民からなる「歴史のみちすじ検討会」を設置し、歴史的まち並みを復元・保全するための検討を行った。

《復元内容》

- ①マウンドアップ歩道の撤去。
- ②道路脇の側溝は、石積み水路に復元し、水のせせらぎが聞こえる空間を確保。
- ③舗装は自然色（淡いグレー）にして歴史的景観に配慮。
- ④車社会によって設けられた交差点部の隅切りを除去し、枡形を復元。



写真-6 武家屋敷通線(整備前)



写真-7 武家屋敷通線(整備後)

【ストック効果】武家屋敷通りの復元によって、武家屋敷と調和した歴史情緒あふれる空間が形成されたことで、人力車の運行開始や、武家屋敷を背景としたCMや映画の撮影の場としても利用されるようになり、秋田県のPRにもつながっている。多くの観光客が訪れる桜まつり期間中は、観光客が有意義に楽しめるよう歩行者専用開放されるとともに、各種イベント開催の場にもなっている。また、秋には、約400年続く角館の伝統行事である「角館祭りのやま行事（国指定重要無形民俗文化財）」も行われている。



写真-8 桜まつり期間中は歩行者専用開放

(4) 横町線

- ・事業主体 秋田県
- ・事業期間 平成6年度～平成26年度
- ・事業規模 延長280m、幅員16～17m

横町線は、環状道路の役割を担うとともに、JR角館駅と武家屋敷や桜木内川といった観光名所をつなぐ路線で、沿道は観光商業地となっている。整備前は、幅員6.5m程度しか無く、路肩部分は電柱に占有されていたため、地域住民や観光客の安全確保が困難な状況であった。横町線の拡幅・歩道の整備により、歩行者の安全が確保されるとともに、ボトルネック区間の解消で交通混雑が緩和され、これまで混雑を避けるため周辺



写真-9 CMや映画の撮影にも利用

の道路を抜け道としていた車も減り、まちなかの生活環境も向上した。

《交通量の変化》

- ・横町線 約2,770台/日(整備前:H9) →約5,120台/日(整備後:H26)



写真-10 横町線(整備前)



写真-11 横町線(整備後)

沿道は商店も多いことから、荷捌きのための1.5mの停車帯を設置し、冬期間は車道除雪の一次堆雪帯としても機能を発揮している。歩道部は、電線類を地中化することで、景観に配慮するとともに、通学路にもなっていることから、冬期間でも安全で快適に通行できるように、地下水の熱を利用した融雪施設を整備している。

また、横町線の整備にあたっては、設計段階から地域や沿道住民との懇談会を随時開催し、歩道舗装材や街路樹等の選定から沿道景観まで地元との合意形成を図っている。

- ①歩道舗装材は、県産材である男鹿石を使った自然石を採用。
- ②街路樹の樹種は、四季を楽しめるよう新緑・紅葉の美しい落葉広葉樹で、角館に自生している樹種の中から選定。
- ③道路照明灯は、切妻屋根に障子をイメージしたデザインを採用。

《シダレザクラ等の保全と道路空間の確保を両立》

沿道に存在した国指定天然記念物のシダレザクラ2本が支障となることから、文化庁や、公安委員会、地元・学識者(樹木医)等からなる「角館のサクラ保存協議会」と対策を協議し、道路線形の修正や、左右で歩道幅員を変更(シダレザクラが存在する左側歩道を4mとし、右側歩道を3mとした。本来は3.5mの両側歩道)し、シダレザクラを歩道空間の中に取り込むことで、シダレザクラの保存と道路空間の確保を両立させた。加えて、根周辺の土が路盤材に入れ替わることや、すぐ脇が車道になることから、土壌改良やPCスラブ橋による踏圧分散策等の様々な保全対策を行い、シダレザクラの生育環境を確保した。また、拡幅によって、国登録有形文化財の町家も1棟支障となったが、所有者と協議し、曳家により保存している。

【ストック効果】拡幅にあたっては、地元とまち並ルールを定めた景観協定を締結することで、沿道の建物の外観も、黒と白を基調にした町家風の意匠に統一され、「みちのくの小京都」角館にふさわしい観光商業地へ再生された。また、沿道には街路整備をきっかけに、町家風旅籠をイメージした「町家ホテル」や食・農・観を結ぶ6次産業化拠点施設「食彩・町家館」等からなる「町家・角館プロジェクト」も民間主導で始動し、通過型の観光地となっている角館における、宿泊施設による滞留時



写真-12 町家風に再生された商店街



写真-13 6次産業化拠点施設「食彩・町家館」

間の延長、観光客と地域住民との交流機会の拡大など、まちの賑わいづくりの核として期待されている。

4. 観光客数の増加に貢献

秋田県内の主要観光地の観光客数が伸び悩んでいる中、角館においては、歴みち事業の進捗につれて観光客数も徐々に増加していることから、街路整備が角館の観光振興にも貢献したと言える。桜まつり期間中は、秋田新幹線の開業や秋田自動車道の東北自動車道接続との相乗効果もあり、約40万人（H4）から約140万人（H25）と3倍以上に増加している。

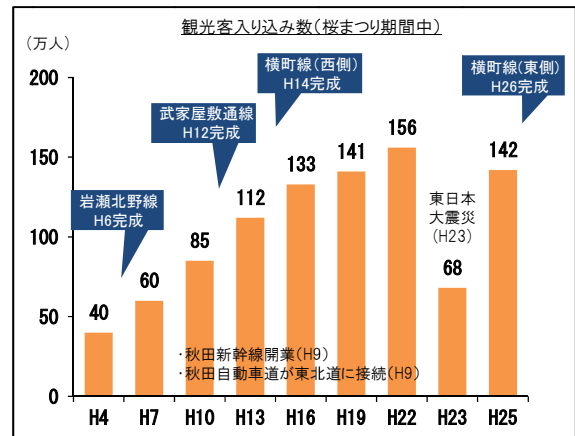


図-3 秋田県観光統計

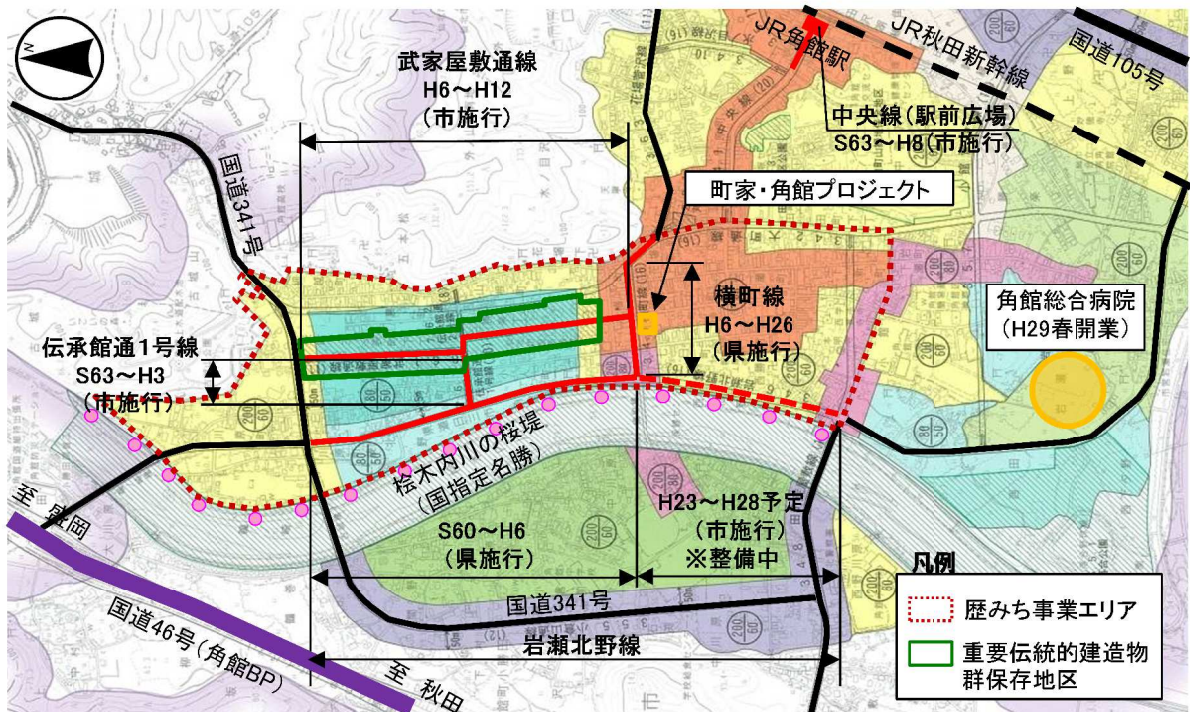


図-4 歴みち事業全体図

5. おわりに

角館には、武家屋敷のある内町地区だけでなく、外町地区にも、古い商家や土蔵など数多くの近代建築遺産が残っており、店舗やレストランなどにリノベーションして活用・保全している。

今後は、武家屋敷通りの観光客を、いかに外町地区に引き込むかが、地域全体の活性化につながる鍵となり、そのためには、まちを歩きたくなるような空間を形成し、観光客の回遊性を高めることが重要となってくる。また、歴史的地区環境整備における、街路と建物の相乗効果は不可欠で、仙北市では平成27年度に景観計画を策定し、良好なまち並景観の形成を推進している。地元高校ではキャリア教育の一環として、生徒が歴史案内人となり、角館のまちを案内する取り組みなども開始されており、ハードとソフト、行政と地域が一体となって、地域の観光資源をブラッシュアップすることで、更なるまちの魅力向上・活性化につなげていきたい。